

ド・ロ神父 (1840~1914)



Collection Christian POLAK

1868年に一時帰国したプチジャン神父の代わりに来日したド・ロ神父 (Marc Marie de Rotz) は、1878年に出津教会主任の司祭として任命されて以来、外海地方での布教活動に従事した。

彼は貧困に苦しむ同地の人々が生業を身に着けることができるよう、私財を投じて出津村や黒崎村に救助院を設立して自ら技術指導を行い、織布・マカロニ・パン・醤油の製造を開始するなど授産活動に尽力した。

孤児院や診療所の設立にも取り組み、生涯を外海地方の社会福祉増進にささげた。